

総務企画委員会・建設委員会

開催日	令和7年8月5日（火）
開催場所	県南予地方局八幡浜支局 7階 中会議室
テーマ	八幡浜圏域における地域活性化について
参加者	地域代表者 八幡浜みなっと みなと交流館 館長 木村 謙児 株式会社地域法人 無茶々園 代表取締役社長 大津 清次 株式会社アライ（臥龍醸造） 取締役部長 新井 一成 総務企画委員会委員 建設委員会委員
質疑内容	地域代表者からの声 ● 八幡浜みなっとは、平成25年4月にオープンし、当初の7年間は年間100万人を越える来場者となったが、令和2年から3年にかけてのコロナ渦では、約83万人に落ち込んだ。その後、昨年度は再び100万人越えの来場者数を達成したものの、にぎわいをどう作っていくか、情報発信はどうしていくかは今後も課題であると感じている。経済効果の還流として、まちの元気はみなとからという考えのもと、黒い商店街やレンタサイクル等を行っており、着地型観光では、中学生や高校生を対象とした教育旅行誘致に力を入れている。また、市民活動のさらなる活性化として、みなと交流館は、南予で最初の中間支援組織として立ち上がり、その後、各市町に中間支援組織ができているが、今後は、組織間でネットワークを構築することが課題であると感じている。 ● 無茶々園は、50年前に環境に配慮しエコロジカルな生活スタイル、今でいう持続可能なまちを作ること为目标に立ち上げた運動体である。活動の一つとして15年前からみかんの有機栽培に取り組んでおり、減農薬を含めて、旧明浜町の3割強で我々の生産方法を取り入れており、安全安心な農産物の生産が、線から面的に広がっている。しかしながら、昨今の気候変動により、有機栽培を行う環境条件が厳しくなり、生産面で苦戦を強いられている。農業以外では、地元漁師との連携にも取り組んでおり、ちりめんや真珠生産者に協力をいただき、海的环境保全への挑戦やすじ青のりの陸上養殖、藻場の再生活動に取り組んでいる。また、介護施設も運営しており、当初は農家

の副業として取り組んでいたが、事業を行うなら地域に本当に必要なことをやろうということで、事業を進めているところである。無茶々園の基本的な考え方は、食料、エネルギー、福祉、雇用の自給による自立したまちづくりであり、都市の生活者と田舎の連携事業を推進するものである。大きく言うと、社会的連帯経済の取組実験として、地方みらい共創戦略モデルであると思っている。現在、西予市と連携して、廃校となった小学校を事務所として活用し、地域と連携して修学旅行の誘致や柑橘農家がオリジナルジュースを作る加工場として利用している。人口減少が進み、自治体単位ではなく、集落単位で国のモデル事業などを活用したいと考えているが、条件が合わないので、地域が利用しやすい制度設計について検討をお願いしたい。

- 株式会社アライは大洲市でパッケージ事業をしている会社で、約 20 年前に福祉分野にも進出し、障がい福祉事業を積極的に展開し、約 150 人の障がい者を雇用している。クラフトビール事業も行っているが、その背景に、障がい者雇用の促進や地域の盛り上げという面が大きい。クラフトビール製造における雇用の創出、地域産品の活用による価値の創造による地域の盛り上げ効果は大きいものがある。大洲市は持続可能な観光地世界 1 位になった。地域の農産物等を利用したクラフトビールが認知されることにより、地域も盛り上がり、愛媛の認知度も上がる。原料となる農産物の品種改良が、我々にとっても新たな商品開発に結び付き、新たな P R 活動にもつながる。高付加価値の商品を開発・販売し、これからも愛媛県を盛り上げていきたい。

質疑応答

Q 無茶々園では、愛媛ダイビングセンターと連携して藻場バンクを実施されているようだが、いつから始めたのか。また、海藻は何を利用しているのか。

A ダイビングをされている方の指摘で磯焼けがひどいということを知り、昨年から地元の漁師と無茶々園が協働して、クロメの栽培を始めた。環境保護の関係で、海への排水規制が厳しいが、栄養塩類が少なすぎると、逆に磯焼けを悪化させることにもなる。徳島では特区制度により、あえて工業排水を海に流す取組をしているので、愛媛県でも試験的に導入してもらえるとありがたい。

Q 夜に八幡浜港に帰って来るとライトアップされており、雰囲気がいいと感じたが、夜のイベントの実施状況はどうか。

A 夜に限定すると、8月に夕涼み会と12月にクリスマスオレンジフェスティバルを実施している。照明費用等かかるので、夜のイベントだけで賑わいをつくるのはなかなか難しい。

Q 無茶々園の無農薬柑橘や臥龍醸造のクラフトビールはふるさと納税の返礼品になっているのか。

A 無茶々園の無農薬柑橘は西予市の返礼品になっているが、柑橘の調達競争や品質面で苦情等も発生し苦慮している。

ふるさと納税の返礼品基準は国が定めているが、原材料の半分以上が地元のものでなければならないなど、規制が厳しいため、クラフトビールについては、大洲市の返礼品にはなっているが、八幡浜産のみかんを使ったものは、原材料基準を満たさず断念した。

Q 地域を活性化させていく上で、行政や住民との連携における課題はどうか。

A みなと交流館は、中間支援を担っており、地域で活動する団体を応援し、組織的に強くすることを目指しているが、支援には時間がかかり、単年度では結論が出ないので、年度ごとに重点支援団体を決めて、継続した支援を行っているところである。地域団体の活性化は、地域力の強化につながっていくと思うので、3年から5年の少し息の長いスパンで支援を続け、団体が自立し団体力の強化につながることを目標としている。

農業は限界がきており、事業承継を活用していかなければ厳しい状況は変わらないと感じている。

人口減少の進行は、ある程度は仕方がないと考えており、その中で様々な事業を展開することにより、人と人とのつながりが生まれ、そこからニーズを聞くことで、事業に膨らみが生まれるのではないかと。そのことが福祉事業や観光事業に繋がっていったと思う。

Q 八西地区は古くから九州とのつながりが深いが、現在の連携状況はどうか。

A みなと交流館は、国土交通省が進めている港オアシスやC級グルメの分野等で連携を進めている。また、九州と結ぶフェリーとの連携も視野に入れて運営している。

株式会社アライは鹿児島県のさつま揚げや福岡の明太子のパッケージで大きなシェアを持っている。橋で結ぶことは難しいと思うが、交通の利便性が良くなると、さらにビジネスチャンスが広がると思う。

Q 無茶々園の外国人労働者との関わりを説明してほしい。

A 2000年にベトナムに拠点を作り、現地で日本語を教えたベトナム人を実習生として受け入れてきた経緯があるが、今はベトナムの経済発展により、日本ではなく韓国で働いたり、他の分野に行くようになり、農業が選ばれなくなっている。無茶々園では、帰国した実習生が作った胡椒を輸入している。帰国して、学んだことを実践してくれたらいいのだが、儲けが出る他の分野があるとそちらに行ってしまうので、お互いwin-winの関係で交易できる構造が理想であるが、1企業では限界があると感じている。

Q 人材確保で何かご苦労はあるか。

A みなと交流館は市の指定管理施設であり、雇用期間が3年や5年と限定されてしまうため、将来ある若者が同じ仕事を続けていくことが難しい。給料以外のやりがいと価値を見出していくことも必要だが、ある程度の収入を得て生活が安定することも重要だ。

株式会社アライでは、65歳が定年で、本人との合意の下で70歳まで雇用を継続できる形態をとっている。また、私自身がYouTubeによる会社紹介をすることで、アライを検索すると私の動画が出るようになり、興味を持ってもらえるようになった。今、最低賃金が底上げされてきているが、このことによって、地元に残る若者も出てくるのではないかと個人的には思っている。

Q 中間支援組織として地域との連携状況について教えてほしい。

A 市内の企業や商工会議所、青年会議所等と連携し、商品開発を行っている。最近の事例では、じゃこ天ソーセージや川之石高校生と連携したポン酢などがある。また、マーマレード関係では、高野地フルーツ倶楽部が組合法人化し、コンテストで金賞を受賞するなど、自立自営をする企業に成長しているものもある。

Q トロール会議について教えてほしい。

A 平成30年7月豪雨災害における情報共有会議が」発端で現在は、情報共有だけではなく、高校生や大学生と連携して、若者の強みであるデジタル技術等も活用して、災害に強いまちづくりのための課題の洗い出しや解決方法を模索している。

総括（松下建設委員長）

参加された皆様の経験や発想、意見は大変参考になった。本日お聞かせいただいた内容は、今後の議員活動に生かしていきたいと思うので、これからも地域発展のためにお力添えをいただきたい。

会議の様子



環境保健福祉委員会・観光スポーツ文教警察委員会

開 催 日	令和7年8月7日（木）
開催場所	伊予市役所 4階 大会議室
テ ー マ	拉致問題に関する地域及び学校の取組みについて
参 加 者	地域代表者 特定失踪者大政由美さんの母 大政 悦子 大政由美さん連絡会 会長 水本 説男 大政由美さん連絡会 幹事 松岡 セツ子 伊予市立中山中学校 講師 本馬 祐子 環境保健福祉委員会委員 観光スポーツ文教警察委員会委員
質疑内容	地域代表者からの声 ● 平成15年3月19日、伊予市議会定例会最終日に、当時の中村市長が閉会挨拶で、1991年に韓国で行方不明となった由美について言及し、伊予市としても、市内各団体と協議をして、何らかの行動を起こす必要があると述べてくださった。同年5月24日に、大政由美さんの行方不明の真相究明を求める連絡会の設立総会があった。そして、同年8月から平成16年2月にかけて、伊予市地区別人権・同和教育懇談会の52会場を回り、挨拶と署名のお願いを行った。 平成16年5月、横田御夫妻をお迎えし、北朝鮮による拉致問題を考える県民大集会が開催され、平成18年6月に北朝鮮人権法が成立し、12月10日から16日までが北朝鮮人権侵害問題啓発週間となった。 平成26年1月、政府・愛媛県・伊予市の共催で映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」が上映され、令和3年10月、IYO夢みらい館にて、拉致問題啓発舞台劇「めぐみへの誓いー奪還ー」が公演された。 令和5年10月、伊予市立中山中学校で行われた青少年赤十字研究会にて、拉致問題についての公開授業が行われ、令和6年12月、伊予市立中山中学校で、創作劇「同じ空を見ていた」を、生徒さんたちが人を思いやる心を持ち、拉致被害者・待っている家族の想いを演じてくださった。 これまで、伊予市教職員人権・同和教育研修会、愛媛県人権教育協議会伊予支部総会、佐礼谷小学校、郡中小学校、オピニオン

リーダー養成講座、伊予市人権・同和教育研究会等、様々な場で私の話をさせていただいている。

特定失踪者に対して、行政はじめ各種団体の方々が寄り添ってくださっていることは、全国でも稀有なことだと心から感謝している。

- 由美さんが行方不明になって、大政さん御夫婦も憔悴しきっていたので、これではいけないと思い、これからのことを考えていこうと元気づけた。大政さんを助けることを仲間に相談し、これから大政さんがいろんな所へ行くには、お金が必要だから、お金を集めて使ってもらおうという話になり、皆さん賛成して、出してくださった。

それから、リボンの会という会をつくった。ブルーリボンを皆さんにつけていただこうということで、たくさん作って配った。署名活動をしたり、寄付も集めたりした。リボンの会はなくなってしまったが、これからも大政さんに寄り添って、やっていきたいと思っている。そして、早く由美さんに会えることを望んでいる。

- 令和6年度から大政由美さんの行方不明の真相究明を求める連絡会の会長をさせていただいている。

大政由美さんの行方不明の真相究明を求める連絡会は、行方不明になっている大政由美さんの早期救出を目指し、市民の皆さんと心を合わせて真相究明を図ろうと、平成15年5月連絡会を設立した。

主な活動内容は、伊予市内の行事に合わせて、署名活動、啓発活動を行うことである。民生委員さんが手づくりのお菓子を作って、会場で販売し、その売上金を、寄付していただいている。また、救う会愛媛の活動であるいよてつ高島屋前での署名活動、12月の拉致問題啓発パレード、椿まつり署名活動に参加している。

一日も早く、大政由美さんの救出ができるよう、大政悦子さんとも協議し、寄り添いながら進めている。議員の皆さんのお力で、国政を動かしていただいて、一日も早い、拉致被害者の救出をぜひともお願いしたい。

- 中山中学校では、人権同和教育に取り組んでおり、その一環として、3年前から深刻な人権問題である拉致問題に取り組み、段階的に指導をし、生徒たちと共に、拉致問題の解決を目指す輪を、この伊予市から広げていきたいと考えている。

昨年度は、4月に大政悦子さんをお招きし、御自身の経験を交えた貴重なお話を聞かせていただき、大政さんの言葉から、今後

の行動のヒントを得ることができた。そして、全校体制で拉致問題に関する人権劇とメッセージソングの制作を行い、劇と曲を生徒たちの手で作り上げ、12月には、人権同和教育参観日で、劇タイトル「同じ空を見ていた」と題して、披露することができた。

本実践を通して、多くの生徒が拉致問題をより身近に感じ始めたように思う。これは、本校の全教職員の熱意と協力があつたからこそ成立したものだと感じており、改めて、教職員が一丸となって研修を深め、生徒に教えるのではなく、生徒と共に学び、共に悩み、共に歩いていく姿勢がどれほど大切であるかを再確認した。

中山中学校での学びが、伊予市、愛媛県、そして全国へと広がっていくよう、そして何より一日も早く、拉致被害者全員が御家族との再会を果たすことができるよう、今後も中山中学校は、学びを止めず続けていきたいと思っており、これからも私たちは行動を続ける。残された拉致被害者の御家族も高齢になり、本当に時間がないので、なんとか国に動いてほしいと心から思う。

～～～人権劇「同じ空を見ていた」視聴～～～

質疑応答

Q 特定失踪者を、地域の皆さんと共に思い続けるために、さらにこういった場が必要ではないかとか、新たにこうした方がいいとか、そういったアイデアがあつたら教えていただきたい。

A 個人情報とかの問題が出てから、署名される生徒さんがいなくなった。立っていることに意義があると私は信じて、子どもたちに何とか振り向いてもらいたい思いで、署名活動をしている。

何か良い方法があつたら教えていただきたい。

→やはり風化させないことが大切で、愛媛県議会議員も、署名活動に立ち続けている。ただどこまでいっても外交問題なので、愛媛県議会が一体となって、国政に対して、これまで以上に強く行動していただけるよう要望等を継続したい。

Q 伊予市立中山中学校の生徒の皆さんによる劇を見させていただき、感動で胸が一杯だが、最初にこれをやろうと言い出されたのは、生徒なのか。

A 全校で取組みを始めたのは3年前だが、その前に大政さんの話を聞いて、それを基に授業をした教員がいて、そこから生徒たちの声が上がっていった翌年につながったという流れである。

Q 中山中学校でこの活動を継続して行っていこうとされているのか、今後の取組み方針についてお聞かせいただきたい。

A 中山中学校に入学する生徒が少なくなっていて、この劇を続けていくのが難しいので、この劇のセリフなどを使った読み物の資料を、他の中学校にも、道徳の教材として使ってもらえるよう拉致問題の資料として、今生徒たちが一生懸命作っている。

Q 県が朝鮮学校に補助しているが、その点についてのお考えをお聞かせいただきたい。

A 私自身は、朝鮮の国民に何も罪はない、一番ひどいのはトップだという認識でいる。拉致問題が一日も早く解決すれば、両国民が幸せになる、ただその願いでいる。子どもたちに対する支援には、反対しない。

Q 人権・同和教育参観日で劇を見られた参加者の感想に、「仲間と共にあることを実行しようとしたんですが、直前になって断念しました。」とあり、その計画に反対して、心配する意見が出たことが断念の理由とされている。どういったお声があったのか、差し支えなければ伺いたい。

A 多分小学校の先生が書かれたのではないかと思うが、どういう経緯で断念したのかはわからない。「今日の劇を見て、もう一度仲間をつくることから始めてみます。」とあるので、子どもたちが頑張っている姿を見て、もう一遍やってみようという気持ちになって、もう少し幅を広げて中学校の生徒の皆さんも協力してくださいという声掛けだろうと私は受け止めている。

Q 議員の皆さんも、署名活動に参加されておられるが、他に活動されていることがあれば教えていただきたい。

A 愛媛県議会に愛媛拉致議連という議員連盟を設置させていただいており、県議会議員はもとより、同じ気持ちを持つ市議会議員、町議会議員、愛媛県の国会議員、みんなでやっている議員連盟である。

県が、市町の拉致問題の担当者を年に1回集めて、研修を行っているが、その講師の謝金や旅費は、毎年、我々議員連盟が負担をして支出している。救う会愛媛の署名活動にも毎月参加させていただいている。

少し変わった取組みとしては、コロナ前だが、大学生に働きかけようということで、ミュージシャンで拉致問題を啓発されてい

る若い女性を呼んで、大学で音楽サークルをやっている方たちに、ストリートライブに順番に出てもらい、曲の紹介とともに、拉致問題についての思いを、それぞれ語ってもらった。

拉致問題のことを何も知らない大学の先生もおられたので、学校で拉致問題を扱うことは、相当大事なことだと思っている。

Q 知らないということはよくわかる。

私も、他人事と思わず、自分の孫、子、兄弟、そういう関連で少し考えてみたらどうですかとよく話す。そうすれば、拉致被害に遭われている御家族の気持ちが少しでもわかると思う。

とにかく、拉致がどうなっているかを御存じの方は、今、本当に少ないと思うので、そういうところを少しでも広げていければいい。議員の皆さんにも、一人でも多くの方に協力していただける体制をつくっていただきたい。

A 我々みんなで力を合わせて、国の背中をしっかりと押していけるように、頑張って参りたい。

皆さんのお話を今日お伺いして、啓発が足りない、知らない人が多いという声が、一貫していたと思う。そんな中、義務教育のところで、しっかりとした取組みが出てきたが、まだまだ温度差は相当あって、ここを何とかしなければいけないと、痛切に感じた。

議員もそれぞれに受け止めがあったと思うので、今日の皆さんの声を持ち帰り、しっかりと活かせるよう頑張っていきたい。

Q 最後に、メッセージがあればお願いしたい。

A 平成 15 年 1 月 10 日の公表後、即動いてくれたのが、愛媛拉致議連と救う会愛媛で、疑惑を解明するということで、韓国へ 20 名ほどで行った。皆さんの行動を見て、どうして見ず知らずの娘のためにこんなに行動されるんだろう、私だったらできないと思った。帰ってから、この方たちに恩返しは私にはできないが、娘は最後に見つかったのでいいから、これからは拉致された人々を助けるために、この方たちと共に行動しようと私は気持ちを決め、拉致問題の解決に向け活動している。

支えてくれる方々に本当に感謝しながら、私は、拉致問題が一日も早く解決し、誰が帰ってもいいから、タラップを降りる姿をもう一度見たい、その思いで頑張っている。

→ 我々も、いつも申し上げていることだが、最後の一人を取り戻すまで絶対に見捨てないし、諦めない、こういう気持ちで取り組んでいきたいと思う。

総括

(川本 観光スポーツ文教警察委員長)

今日は、拉致問題に関する地域及び学校の取組みについて、いろいろとお話を伺うことができた。2002 年に小泉純一郎総理が電撃訪朝をされて、一気に拉致問題が解決に向かっていくと私も期待をしていたが、それから一向に進まず、はや 23 年が流れてしまい、この 23 年という時間の中で、我々一人一人の思いというもの、少しずつ風化しているのではないかと感じている。

しかしながら、中山中学校の取組みを通じて、子どもたちに、他人事ではなく、我々一人一人の身近な問題だと、自分事として捉えてもらい、風化させないということが大変重要だと改めて感じた。

一日も早く、この拉致問題を解決して、子どもたちに対して、今起こっている問題ではなく、過去にこういったことがあったと教えられるように、過去の問題にできるように、私たちも行動を続けていく思いでいる。

会議の様子



農林水産委員会・経済企業委員会

開 催 日	令和7年8月6日（水）
開催場所	JA おちいまばり本店 3階 大会議室
テ ー マ	今治市における地域活性化の取組みについて
参 加 者	地域代表者 せとうちみなとマルシェ運営委員会 副運営委員長 清水 崇 愛媛県漁業協同組合宮窪支所 運営委員長 関 洋二 J Aおちいまばり本店 営農経済担当常務 森 康弘 農林水産委員会委員 経済企業委員会委員
質疑内容	地域代表者からの声 ● セとうちみなとマルシェを令和4年11月から毎月2回、今治港は一ぱりーで開催している。今治市中心市街地活性化の取組の1つとして、これまで、計62回開催しており、競り市、魚や野菜の販売、グルメなど様々なものが集まる市場として開催している。年間、約25万人が来場しており、今治市や漁協、観光協会など、関係機関と協力しながら、多種多様なイベントを開催している。I R Cの経済波及効果調査では、1年目で約10億円、2年目で12億円を超える経済効果があったと言われている。マルシェを持続・継続・進化させることが、中心市街地の活性化につながっていくと考え取り組んでいる。 ● 宮窪支所では、地域の活性化と、漁家の所得の向上を図るため、宮窪で獲れた新鮮でおいしい魚を提供することに加え、日本最大の海賊と呼ばれる、能島村上氏の本拠地で潮流体験ができる、能島水軍レストランを支所直営で運営している。この数年は地球温暖化の影響で、海水温が上昇し、漁場の環境の悪化から、漁獲量も減っているが、新たに展示商談会に参加するなど、販路開拓に取り組んでいる。また、せとうちみなとマルシェでは誰でも参加できる競り市を開催し、競り人の掛け声とともに、白熱のやりとりが繰り広げられ人気を博している。マルシェは他業種と交流するチャンスであり、マルシェを通じて今治の魅力を全国の人に発信し、地域の活性化につなげていきたいと考えている。

- さいさいきて屋について、令和6年度の販売高は愛媛県が実施したプレミアムクーポンの影響もあり非常に好調だった。また、来年20年目を迎えるので、様々なイベントを計画している。令和7年1月7日に食のテーマパークとして、しまなみいちご園という観光いちご園をオープンした。また、地域の農業振興に向けた取組として、農畜産物の原料供給と地元加工業者とのマッチングによる6次産業化商品の開発を行っているほか、コロナ禍を経てネット販売にも力を入れており、紅まどんなをふるさと納税の返礼品とすることで、地場製品の消費拡大、自治体税収増、知名度アップにも寄与している。

質疑応答

Q 温暖化の影響で漁獲高が減少しているとのことだが、現場として、何か対策等を考えていれば聞かせてほしい。

A カニやエビ、イカの産卵場となるアマモを増やしたいと考えている。

Q 貸し農園について、どれぐらいの方が利用しているのか。また、実施していく中で課題などがあれば教えてほしい。

A 34区画のうち、半分程度が利用されている。課題は遠方の方が借りると移動に時間がかかるため、こまめな世話ができないことや、農機の整備が不十分なことなどが挙げられる。

Q さいさいきて屋がオープンすることで、生産者の方々の所得にどのような影響があったのか。

A 登録されている出荷者約1,200人のうち、常時、出品している方は900人近くいるが、これらの方に販売の機会を提供することで、所得向上につながっていると考ええる。

Q マルシェについて、市内に常設店舗を開業したいと思える仕組みを築くとの説明があったが、具体的な事例や今後の展望があれば教えていただきたい。

A 具体的な動きには至っていないが、例えば、商店街の一角を空き店舗を含めて全て買い取って、店舗を建設し、スタートアップしたい人たちに貸し出すようなことができればと考えている。行政だけでなく、民間も知恵を出し合って、今治市を盛り上げていきたい。

Q 全国の J A 直売所の売り上げランキングでさいさいきて屋は 3 位となるなど、全国から目標とされる位置にいるが、さらに上を目指すための構想などがあれば聞かせていただきたい。

A 登録者数を増やすため、これまで販売農家でなかった方の掘り起こしを行っているほか、気候変動等が理由で安定して作物を栽培することが難しくなっているので、季節を通じて収穫できるよう指導している。また、量が多く取れて、余って売れない品目については、共選共販に回っていただき、直売所で販売するものと住み分けを行うことで、地域農業者のすそ野を広げていきたい。

Q 漁業者として、海に栄養がないことの実感はあるか。

A 海は綺麗だが、栄養がないので、魚は北上し、クラゲだけ残されている。昔の人は海を育てるより山を育てろと言っていたが、そのとおりで山からの栄養が大事だと思う。

Q セとうちみなとマルシェの開催頻度について、1 か月に 2 回の頻度で開催されているが、出店者や参加者から週 1 回の定期開催をしてほしいなどの意見はないか。

A 週 1 回の開催や逆に月 1 回としてほしいなど、様々な意見が出ている。運営が全てボランティアによること、また、マルシェの位置づけが、中心市街地の活性化を目的としていることから、無理なく出店でき、効率的に運営できる 1 か月に 2 回の開催頻度に落ち着いているが、それが正しいかどうかは、現在も運営委員会で議論が続いている。

Q 直売所での売れ残りについて、食品ロスなどの対策は何かあるか。

A 売れ残り対策として、食堂などで可能な限り利用している。また、運用として、売れ残った野菜等は、日時を指定して、農家に回収に来てもらっているが、回収に来られない場合、やむなく廃棄している。そういった食材をこども食堂などで利用できないか思案しているところ。

Q さいさいきて屋で扱っている商品の認知度向上について何か考えはあるか。

A ふれ愛・媛ポークや伊予牛絹の味、ひめの凜など、愛媛県産の農林水産物のブランド価値が上がれば、付随して JA おちいまばりで取り扱っている仙高ポーク等の価値も上がると考えている。

Q お客さんが求めている野菜等はどういったものか。また、それを農家に反映する仕組みはあるのか。

A 1つの作物に誘導しすぎると、売れ残りが生じてはいけないので、提案はできるが指示等はしていない。一方で朝採れ野菜の需要は高く、朝一は業者の仕入れもあり、新鮮で採れたての野菜が求められている。

Q 宮窪支所で魚の養殖の考えはあるか。

A 現時点で魚の養殖は考えていないが、アサリや三倍体牡蠣を考えている。

Q セとうちみなとマルシェについて、惰性とならないような企画とするため、どの程度の準備期間を設けて実行しているのか。

A 企画については、月に1回、約20名の運営委員が集まって決定しており、規模によっては、半年から1年かけて準備する大掛かりなものもある。以前は、外部に対し何かイベントがないか売り込みをしていたが、最近は企業等から展示会のオファーが来るなど定着しつつある。

Q セとうちみなとマルシェについて、規模を拡大していく中で、協賛企業やボランティアなど一緒に関わっていく方々をどのように増やしてきたのか。

A 運営委員が様々な場所でマルシェを売り込むことで、目的に共感いただき、協賛等マルシェに参画していただいている。また、ボランティアは高校生や金融機関など、様々な方が参加しているが、参加することで連帯感が生まれ、それが、口コミとなって広がっていることを感じている。

Q 今治やマルシェが盛り上がっていると耳にすることがあるが、国内外を含めた観光客の人の流れについて、今治目線で感じていることを教えてほしい。

A マルシェ単体では通じないと思うが、F C今治やサイクリングしまなみなど、ほかのイベントとマルシェを結びつけることで、マルシェを体験いただき、よかったと思っていただいた方にまた今治に来てもらう。そういう、積み重ねが現在の評価につながっているのではないかと思う。

Q 宮窪漁協では、水質や海底環境に変化を与える意味で、マンガン漁を行い魚種を復活させようという試みはあるか。

A 9月、10月に実施予定である。また、他県の事例であるが、マンガン漁を行うことで改善されたという話も聞いている。

Q さいさいきて屋について、昨年の来場者は10%ほど減少しているのに対し、売上高が10%ほど上昇しているが、大きな理由は何か。

A 物価高に加え、野菜や柑橘全般が高単価で、共選品目も単価が高くなり、直売所もそれに起因して売価が上がったことが考えられる。

総括（高山農林水産委員長）

参加者の皆さんには、今治市の地域活性化の取組や課題等を聞かせていただき、大変貴重な時間となった。本日、お聞かせいただいた内容は議会に持ち帰り、今後の活動に活かしていきたいと思うので、引き続き、ご指導いただきたい。

会議の様子

